
蕎麦めくり

うめお

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

蕎麦めくり

【Nコード】

N1608G

【作者名】

うめお

【あらすじ】

不思議な世界に飲み込まれてしまいます

急行池袋行き、西武池袋線に乗って池袋を目指していたのですが、石神井公園を出た途端猛烈にお腹が痛くなって、うんこが目の目を浴びたがりだしましてね。

他の奴のうんこは知らないけれど、俺のうんこは、一度お外に出た言い出すともう聞き分けがなくて、ノンストップで出口を目指す奴なんだ。

俺としては、うんこの気配を感じたら後はトイレが見つかるまでただひたすら脂汗を流しつつ洩らさない気配りをするばかりで、便意がひっこむことを期待するなど、出来ないんです。

神様に「もう二度と人の悪口とか言いません。ゴミが落ちてたら拾ったりもします」と祈りながら必死で池袋線の椅子に座ってケツの筋肉しめていたら、神様助けてくれて、とりあえず池袋駅までは漏れませんでした。

今回は漏れなかったけれど、もし電車が止まるなどして予定通りに駅につかない場合って、やっぱり洩らすしかないのかなあ、などと頭の片隅で考えつつ西武デパートの地下に駆け込んで、トイレに誰もいなかったので個室に入る前からズボン降ろして、ちょこんと便器に座ってゆっくり扉を閉めました。

落ち着いて扉の内側を見ると、「こいつは蕎麦めくりの達人」という落書きの横に電話番号が書いてある。

大変よく見る類の、芸のない落書きの類なんだけど、僕は一応電話

番号の方を見てみたんです。

すると、それは僕の番号だった。

僕は一瞬心臓がビビッと鼓動を早くするのを感じました。驚いたってやつです。

もう一度見ると、やはり僕の携帯電話の番号だった。

まるで合格発表の日の受験生が受験票片手にやるアレのように、そこに書いてある数字と僕の携帯電話の番号をゆっくり一文字ずつ照会しても、同じだった。

一応、その番号に電話を掛けてみる事にした。

僕は携帯電話を二つ持っているので、自分で自分に電話を掛けることができるのです。

鳴った。というか、バイブレーターが震えた。わたしも震えました。

一体誰がこんな悪質なことを。あいつか…あいつは西武線利用者だからありえる。

いや、あいつか…。前に結構な悪口・陰口・学校裏サイトで意地悪したしな。

などと思いつつ尻を拭いていたのですが、ふと、考え込んでしまった。

はたして、これは悪質なのかどうかと。

「こいつはバカ」とか「こいつはクソを食う」などの文面の横に僕の電話番号が書かれているなどしたら僕もそれは怒り心頭になるうものの、なにしろ「こいつは蕎麦めくりの達人」ときてる。

達人である。

達人とは『大辞林』によると「技芸・学問の奥義に達している人」のことである。

奥義に達しているとまで言われて、怒る理由もないのではないか。

僕は、一応自分の電話番号を塗りつぶした後、ややすっきりとした頭でトイレを出ました。

ただ、いざ奥義に達していると言われても、僕には「蕎麦めくり」が一体どんなものなのかいまいち理解しかねるという問題が残る。

僕は池袋の東口喫煙所で、我は達人であると言う陶醉感と、何の達人であるのかわからないという戸惑いという、二つの相反する感情に襲われていました。

その時、携帯電話が震え、鞆から取り出すと見慣れぬ番号。

まさか、と恐る恐る出てみると「もしもし」と知らぬ若い女の暗い声。

「はい。なんでしょうか。どちらさま？」と応答すると「実は今朝わたしの父が亡くなりました。」とか言いやがる。

「もしかして、番号をお間違いではないですか？」

「あの……。あなたは蕎麦めくりの達人様でいらっしやいますよね」

僕の知らないところで世界が勝手に動いてしまったみたいでした。

「あの、蕎麦めくりとはどのような」と言っている途中を切って、若い女は自分の話を続けました。

「父の通夜の席で、是非蕎麦めくりをやっていただきたいと考えまして連絡しました」

僕は、この事態を一体どう切り抜けたものかとしばらく考え込み、ふと、アレ？と思う事態に辿りつき、ややゾツとしましたね。

「場所は東長崎です。午後4時に駅にいらしてくださいればお迎えにあがります」

「お礼はいかほどを用意すればよろしいでしょうか」

女は暗い声で続けるが、僕は「ちょっとお尋ねしたいのですが」と話を切りました。

そして「あなたは女の人なのに、どうやって男子トイレのあの文章を見たのですか？」と聞いてみると、暗い女は急に明るい女になり高い声で「キケケケケケケ」と叫ぶと、乱暴に電話を切りました。

怖くなってもう一度あのトイレに戻ると、個室は閉まっていて、僕は開くのを待ちました。

やがて扉が開いて、おっさんが青い顔して携帯電話をいじりながら、のっそり出てきました。

「蕎麦めくり」とおっさんに言っていると、おっさんは目ん玉をぎ

よつと開き「お前かお前かお前かお前かお前かお前かああ」と叫びながら、僕の頭をトイレの壁にガンガンぶつつけて、それから声にならない悲鳴をあげ、どこかに去って行きました。

全く池袋は変なところですね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1608g/>

蕎麦めくり

2010年10月10日06時12分発行